

富山県大山町

花 切 西 遺 跡

発掘調査概要



1999年3月

大山町教育委員会

序

山と緑に囲まれた大山町では、2000年2月に立山山麓スキー場一帯で「2000年冬季国体スキー競技会」が開催されます。町や県をあげての一大イベントであり、会場までのアクセス道路や休憩所、下水道などの周辺施設整備も急ピッチに進められています。

これらの整備に伴い、数々の遺跡が見つかり調査してきました。花切西遺跡も平成9年に発見された遺跡です。今回の調査では、常願寺川左岸の粟单野台地では初の縄文時代後・晩期の集落跡が見つかりました。隣接する縄文時代中期の集落跡である花切遺跡などとともに、まとまつた地域共同体を形成していたものと思われます。

この調査概要がより多くの人々に活用され、地域の歴史と文化財の理解に役立つことを願ってやみません。

最後に、今回の調査にあたりご援助・ご協力いただきました富山県埋蔵文化財センターをはじめ、地元や諸方の方々に厚く御礼申し上げます。

平成11年3月

大山町教育委員会

教育長 高木 義則

例　　言

1. 本書は、町道栗原野2号線改良工事に先立つ、富山県上新川郡大山町花切西遺跡の発掘調査概要報告である。
調査期間及び面積は、以下の通りである。

調査期間　（試掘）　平成9年5月13日～同年5月20日

（本調査）平成9年6月26日～同年11月14日　　発掘面積　850m²

2. 調査は、大山町教育委員会が実施した。調査にあたっては、富山県埋蔵文化財センターから調査員の派遣を得た。

3. 調査事務局は大山町教育委員会におき、課長代理田近直美・同主事野中由希子が事務を担当し、教育課長中村昭徳が総括した。財務については、町建設課係長森井正秀・同主事平井友理子氏の協力を得た。

4. 調査参加者は以下の通りである。

調査担当者　　大山町教育委員会主事（学芸員）　野中由希子

調査・（協力）員　富山県埋蔵文化財センター企画調整課主任　安念 幹倫・同主任　島田 修一

・同文化財保護主事　高橋 真美

5. 調査にあたり、富山県教育委員会文化課・富山県埋蔵文化財センターから有益な御教示を得た。また、発掘調査から本書の作成にあたり、下記の方々から有意義な指導・援助をいただいた。記して深甚なる謝意を表したい。

泉 拓良（奈良大学教授）、宇野隆夫（富山大学教授）、上野幸夫（富山国際裁縫学院教授）、岸本雅敏、上野 章、泡野正男、狩野 隆、木本秀樹、高慶 孝、酒井重洋、神保孝造、橋本正春、藤田富士夫、古川知明、真柄一志、三鍋秀典、宮田進一、山本正敏、アジア航測株式会社、（有）ケーブルシステムズ、山元建材株式会社、本宮花切地区、大山町観光協会、大山町上下水道課・建設課（順不同）

6. 本書の編集・執筆は、富山県埋蔵文化財センターの協力を得、野中が担当した。

7. 調査参加者は次のとおりである。

稻場富久、大沢清二、大野良信、岡田 雄、柿谷幸子、柿谷塔子、金山紀美子、清水久作、清水宗正、新谷セツ子、新村正弘、高尾登代美、高堂美子、高柳ミサコ、田村清一、塙田貴盛、水井早苗、中村忠雄、野崎和子、橋爪佐智子、林ミツコ、針田栄子、村中二三子、毛利鈴子、森沢 恵、柳原幸子、山地とし江、山元紀江（現地作業員）阿部陽子、上田真人、高堂美子、常川真理、水井早苗、橋爪佐智子、浜田美紀、林ミツコ、針田栄子、宮本大輔、毛利鈴子、山地とし江、山元紀江（整理作業員）

目　　次

| | | | |
|-----------------|---|-----------------------|----|
| I 遺跡の位置と環境 | 1 | 第5図 第101・102号堅穴状遺構実測図 | 6 |
| 第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡 | 1 | 第6図 西側土坑群実測図 | 7 |
| 第2図 地形と区割図 | 2 | 第7図 第1・4号住居跡石組炉実測図 | 8 |
| II 調査に至る経緯 | 2 | 第8図 遺物実測図 | 9 |
| III 調査の経過と層序 | 3 | 第9図 遺構全体図 | 11 |
| 1. 調査の経過 | 3 | V まとめ | 10 |
| 2. 層序 | 3 | 参考文献 | |
| IV 調査の結果 | 3 | 写真図版 | |
| 第3図 第1号住居跡実測図 | 4 | 報告書抄録 | |
| 第4図 第2・3号住居跡実測図 | 5 | | |

I 遺跡の位置と環境

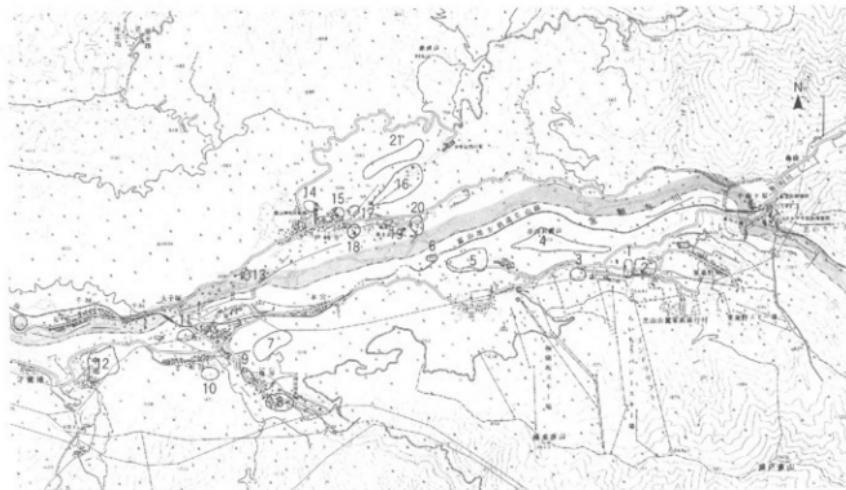
大山町は県の南東部に位置し、町の大半は山地である。残りは町の東側、立山町との町境を北流する常願寺川が形成した扇状地が占める。常願寺川の両岸には発達した河岸段丘が形成されており、周知の遺跡のはほとんどはこの河岸段丘上の平坦面や傾斜面に分布している。左岸側には低位段丘として栗巣野台地、上野段丘があり、花切西遺跡は栗巣野台地の傾斜面上に立地する。

栗巣野台地は東西約36km、南北10kmと東西に長く、標高460~600mを測る。花切西遺跡は標高540~548mで現河床との比高差は150m以上もある。遺跡周辺は現在スキー場やオートキャンプ場を中心とした観光開発が進み、往時の様相をとどめてはいない。遺跡の南側には常願寺川の支流である牛首谷川が流れ、北側には小さい谷状地形が見られ、元々は小さな台地であったと思われる。

周辺の遺跡としては、元本宮寺跡や小見城、小見大丸山砦といった中近世の寺院や山城跡が点在する。他はほとんどが繩文時代の遺跡であり、栗巣野台地の傾斜面上には花切西遺跡、花切遺跡、原遺跡が、台地より一段下がった丘陵上に原砦跡がある。また常願寺川右岸の段丘上に野口遺跡、不動平A・B地点、古屋敷I~V遺跡などの繩文時代の遺跡が密集している。



| | 遺跡名 | 時代 | | 遺跡名 | 時代 | | 遺跡名 | 時代 |
|---|-------|----------|----|--------|----------|----|--------|--------|
| 1 | 花切西 | 繩文中~晩 | 8 | 亀谷銀山跡 | 近世 | 15 | 不動平B | 繩文中・後 |
| 2 | 花切 | 繩文中・後 | 9 | 亀谷 | 繩文 | 16 | 不動平A | 繩文中・後 |
| 3 | 元本宮寺跡 | 中世? | 10 | 和田 | 繩文中) | 17 | 古屋敷II | 繩文 |
| 4 | 与四兵衛山 | 中世? | 11 | 小見大丸山砦 | 中世 | 18 | 古屋敷III | 繩文 |
| 5 | 原 | 繩文前) | 12 | 中地山城 | 中世 | 19 | 古屋敷IV | 繩文 |
| 6 | 原砦跡 | 繩文後・晩・中世 | 13 | 門ノ本割 | 繩文・中世・近世 | 20 | 古屋敷I | 繩文前・後) |
| 7 | 小見城跡 | 中世 | 14 | 野口 | 繩文前・中) | 21 | 芦幡寺城跡 | 中世 |

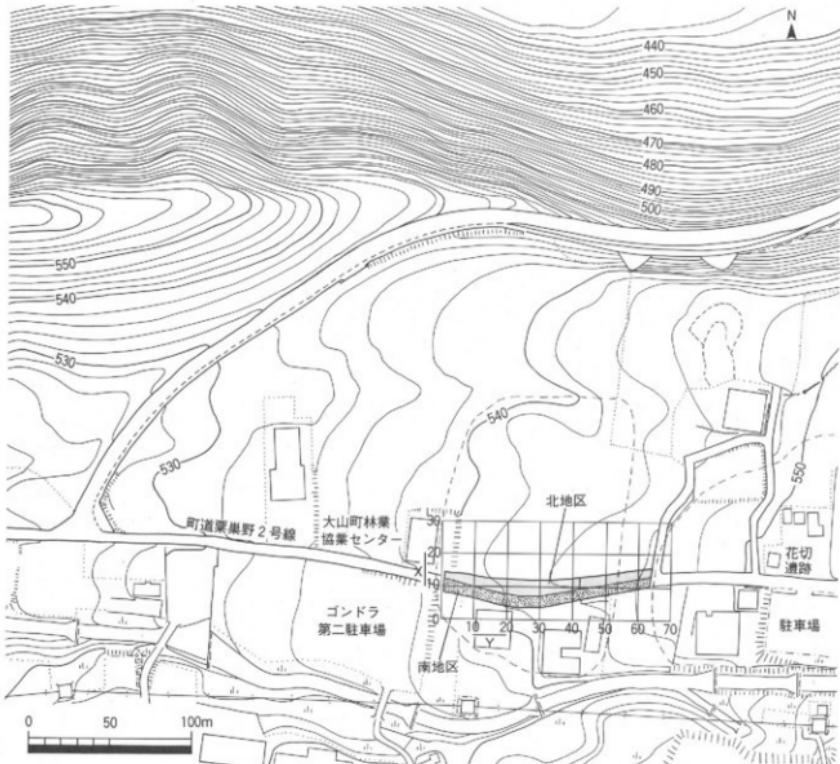


第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (1:50,000)

II 調査に至る経緯

当遺跡が立地する栗東野台地には「2000年冬季国体」のメイン会場となる立山山麓スキー場があり、常願寺川をはさんだ立山町芦崎寺には立山博物館、立山黒部アルペンルートの拠点となる立山駅がある。両岸の観光拠点の一体化を図り冬季シーズンにおける渋滞を緩和することをめざして、立山町芦崎寺から大山町原へ立山大橋の架設をはじめとした県道改良工事が進められている。この県道から分岐する町道栗東野2号線も国体を前に延長600mにわたって改良工事を実施することとなった。事業地内には縄文中期の集落跡である花切遺跡の存在が知られており、大山町建設課・同教育委員会で協議し、まず平成8年5月に事業対象地西側部の試掘調査を、平成9年5月に東側部の試掘調査を実施した。その結果、花切遺跡の推定範囲より300mあまり西側から縄文中～晩期の遺物と遺構が確認された。従来知られている花切遺跡とは時期が一部重なるものの、様相が異なることから新たな遺跡、花切西遺跡とした。

この結果をふまえ、平成9年5月に前二者及び富山県埋蔵文化財センターの三者で協議を行い、平成9年度に花切西遺跡の道路改良範囲、約850m²を対象に本調査を実施することとなった。



第2図 地形と区割図 (1:3,000)

III 調査の経過と層序

1. 調査の経過

北地区

平成9年6月26日から同年9月20日までの延45日間実施した。道路拡幅部分の約640m²を対象とした。調査は、まず重機で表土及び伐採物の除去を行った。続いて国家座標軸に合わせて10m間隔に基準杭を設け、X軸を南北に、Y軸を東西にとり2m×2mを一区画とし、人力により各区の表土除去、遺物包含層の掘削を行った。その後、暗褐色土上面及び地山上面で遺構確認及び検出作業を実施した。その結果、縄文時代中・後期の竪穴住居跡3棟と、西側で焼土と多数の土坑を確認した。

南地区

平成9年10月30日～同年11月14日までの延12日間実施した。既存の可道部分210m²を対象とした。調査は、まず重機で既存道路の舗装及び碎石の撤去を行ったが、遺物包含層の大部分は道路建設時に削平されていたため、すぐに地山上面での遺構確認作業を実施した。縄文時代後期の竪穴状遺構の他、焼土と多数の土坑を確認した。

2. 層序

層序は、第1層：暗茶褐色土（表土、5～32cm）、第2層：黒褐色土（15～40cm）、第3層：暗褐色土（5～20cm）、第4層：褐色土（地山漸移層、0～10cm）、第5層：黄褐色土（地山）となっている。第2・3層が遺物包含層であり、第3層中～下位段階に遺物が多く含まれていた。なお、北・南地区とも調査区の東側には第4層は見られず、第3層は疊混じりで含まれている遺物も少ない。北地区中央部は流れこんだと思われる第4層が砂状に厚く堆積していた。南地区は既存道路建設により第3層までが削平されており、さらに水道管・電話線の布設工事により遺構の一部がすでに消滅していた。第4層上面と第5層上面が遺構の掘り込み確認面となる。

IV 調査の結果

第1号住居跡（第3図）

住居跡はX8～11Y26～29に位置する。標高は542～543mで、一帯は流れ込んだ砂状の土で覆われていた。平面形は長円形と思われ、その規模は長軸5.4m、短軸3.7mである。主柱穴の検出はP1のみである。

炉は80×55cmの長方形の石組炉で、西側炉床部に2個の石が敷いてあった。炉内には、焼土が厚さ5cm堆積している。炉内側全面が焼けている。炉の主軸はS-70°～Wとなる。

住居跡内の遺物は、土器・石器とも出土量が極めて少ない。住居跡南側壁際床面より深鉢1個体分(1)が出土している。粘土紐を張り付けず、半裁竹管のみで施文しており古府式に比定される。このことから住居跡の時期は中期中葉と思われる。

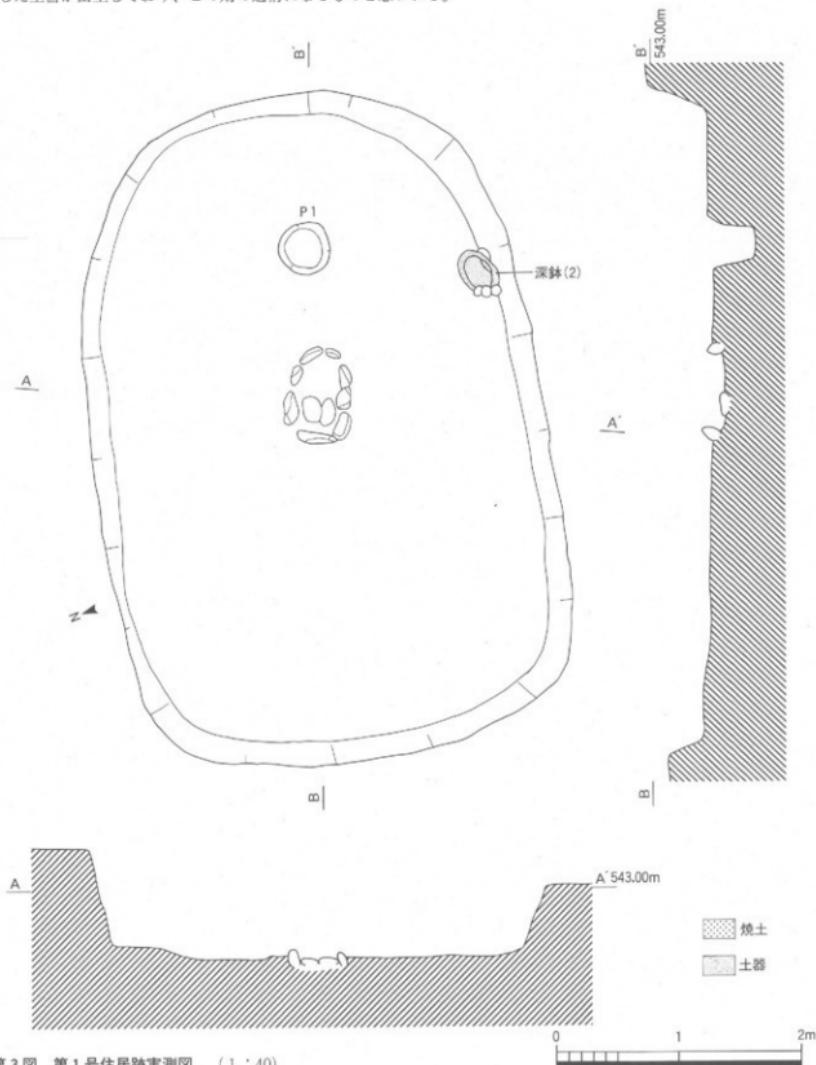
第2号住居跡（第4図）

住居跡はX11～13Y22～25に位置する。北側は調査区外であり確認していないが、平面形はおそらく隅丸方形を呈するものと思われる。南側の一辺は4.4mある。主柱穴はP2・P4で、4本主柱になるものと思われる。P3の北側は薄く焼土が堆積しており、炉は根株で確認できないが北側の調査区外にあるものと思われる。

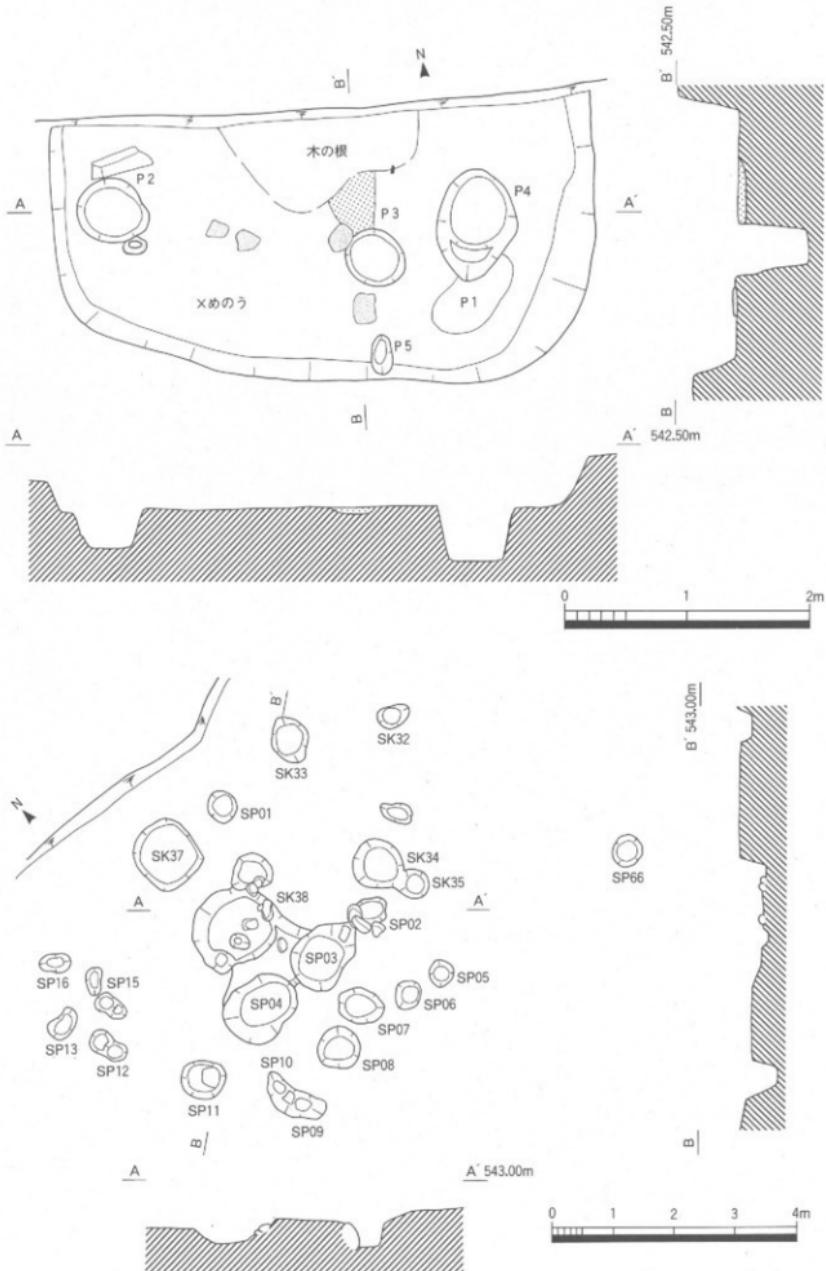
住居跡床面からは中期中葉天神山式の深鉢(2)と長さ約45cmの縦に割った安山岩質の六角柱の石、めのうが出土している。(3)は台付鉢で、天神山式に比定される。出土土器は中期中葉を中心としている。

第3号住居跡（第4図）

住居跡はX 9～12 Y 19～22に位置する。住居跡の壁は検出されておらず、プランは不明である。規模は推定で一辺が4～5m程度と思われる。石組炉の残と考えられる炉石が検出されている。石組炉周辺の穴は、直径30～55cm深さ40～70cmの大きめの柱穴状のものと、直径80～100cm深さ20～35cmのものがある。石組炉を中心とSP02・08・11・14・33を主柱穴とした住居になると見られる。SP内及び周辺の包含層より磨消繩文を施した後期中葉から後葉を中心とした土器が出土しており、この期の遺構になるものと思われる。



第3図 第1号住居跡実測図 (1:40)



第4図 第2・3号住居跡実測図 上：第2号住居跡（1:40）、下：第3号住居跡（1:80）

第101・102号竪穴状遺構（第5図）

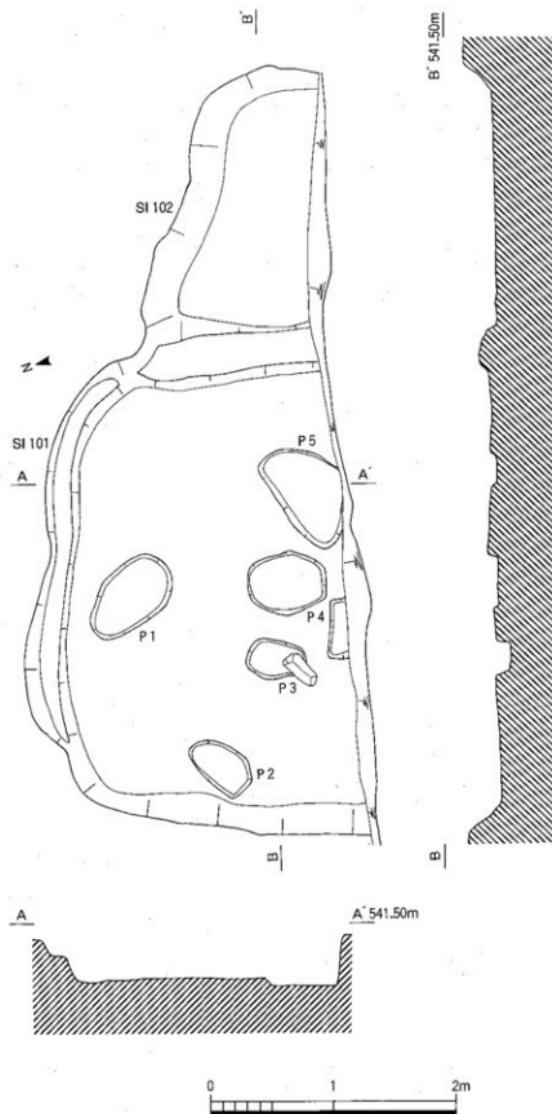
第101・102号竪穴状遺構はX7
～9 Y9～12に位置する。南側は
調査区外になっているものの、竪
穴住居跡と考えられる。遺構内の
ピットは浅く、炉は検出していない。
第101号竪穴状遺構の平面形
はおそらく隅丸方形を呈するもの
と思われる。この遺構の北側の一
辺は4.0mあり、テラス状の張り出
し部がある。第102号竪穴状遺構
を切る形で第101号竪穴状遺構が
構築されている。両遺構とも第2
層黒褐色土が埋土となっている。

両遺構の時期は、出土土器から
後期後葉と思われる。

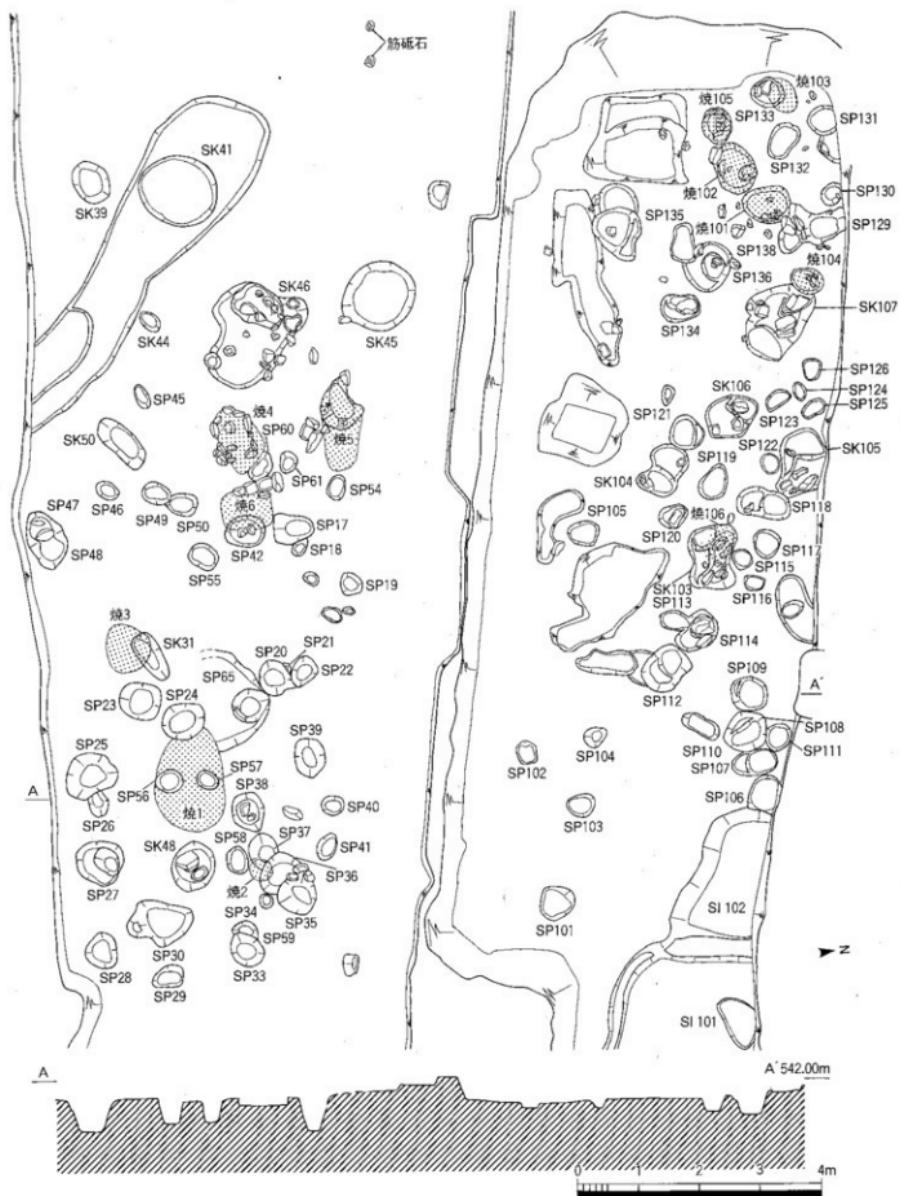
西側土坑群（第6図）

北・南地区とも西側では多数の
土坑を確認した。土坑の形態とし
ては、直径80cm以上の大形のもの
で、円形プランを呈し、垂直の掘
り込みの深いものがある。中には
配石を伴うものがある。直径80cm
以下の土坑は柱穴状土坑で、円形
や不定形プランを呈する。ここでは
後者を多く確認している。また、
柱穴状土坑群の中には石組炉1箇所、
焼土11箇所を確認した。プラン
ははっきりしないが、竪穴住居
跡4～8棟はあるものと思われ
る。

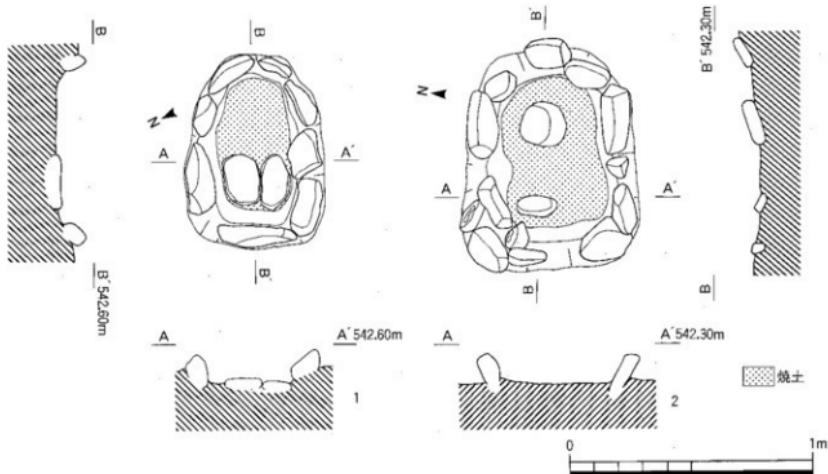
土坑の時期は中期中葉から後葉
にかけてのものと、後期中葉から
晩期前葉にかけてのものがあり、
密集している。



第5図 第101・102号竪穴状遺構実測図（1:40）



第6図 西側土坑群実測図 (1 : 80)



第7図 第1・4号住居跡石組炉実測図 (1:20) 1:第1号住居跡石組炉 2:第4号住居跡石組炉

第4号住居跡石組炉 (第7図)

炉は95×70cmの長方形の単式石組炉で、炉内には小型の円窓を並べておらず、磨石・凹石を転用したものもある。炉内には焼土が充満し、炉内覆土より後期後業の土器片が出土している。

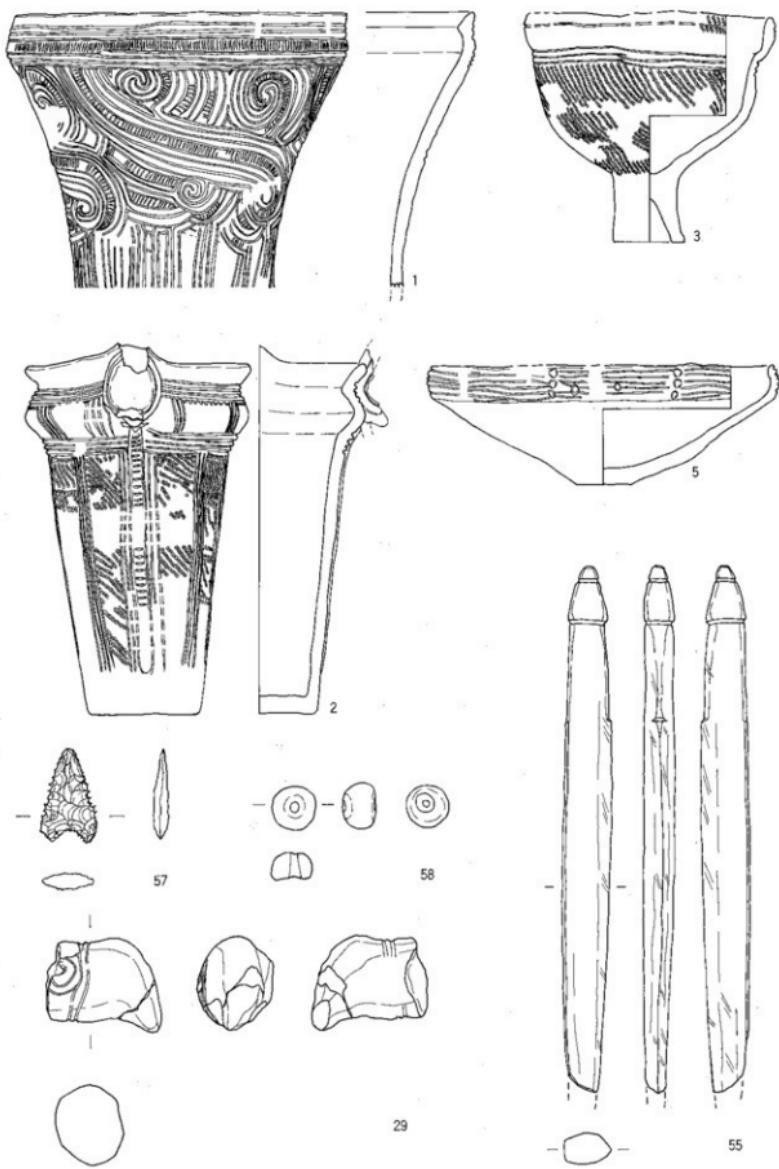
北地区第22号穴 中期中葉のものと思われる板状土偶跡が出土した。腕部と思われる。

同第46号穴 ハリ賀安山岩(通称:下呂石)製と思われる石錐跡と、中央が穿穴された蛇紋岩製丸玉が出土した。時期は出土土器から後期後業と思われる。

同第47号穴 結節状の繩文を口縁部にめぐらせ、口縁部は赤彩された鉢跡が出土した。胴部は黒く塗られている。薄手で調整が丁寧であり、口縁部に装飾を好んだ御経冢式のものと思われる。

南地区第115号穴 筋砥石が出土した。時期は出土土器から後期中葉と思われる。

包含層出土遺物 コンテナ約120箱分の土器・石器が出土しているが、Y40以東は造形がほとんどないこともあり造物量もわずかである。中期の土器は天神山式第Ⅲ期から古府式、古串田新式のものがほとんどで、串田新式がわずかに混ざる。後・晩期の遺物は口縁内部を加飾した御経塚式の鉢が多く、酒見式や井口式、八日市新保Ⅱ式の深鉢なども少しある。(5)は包含層X13Y13より出土している浅鉢で、口縁部に細沈線を引きめぐらせてある。補修孔も1対あり八日市新保Ⅱ式に比定される。石器では打製石斧、磨製石斧、石皿、磨石、叩石などが出土している。特に凹石の出土が多く、炉石に転用されているものもある。磨製石斧は蛇紋岩製のものと硬質砂岩製のものがある。X10Y27の第1号住居跡上の包含層より、長さ約45cmの砲弾状の石棒が出土している。X10Y28より晩期の石刀跡が1点出土している。筋砥石がSD1(時期不明の溝跡)より出土している。遺物の詳細については、今後分類・整理作業を進め検討が必要である。



第8図 遺物実測図 (1~3・5.土器 1:4、55.石刀 1:3、57.石鑿・58.蛇紋岩製丸玉 1:1、29.土偶 1:2)

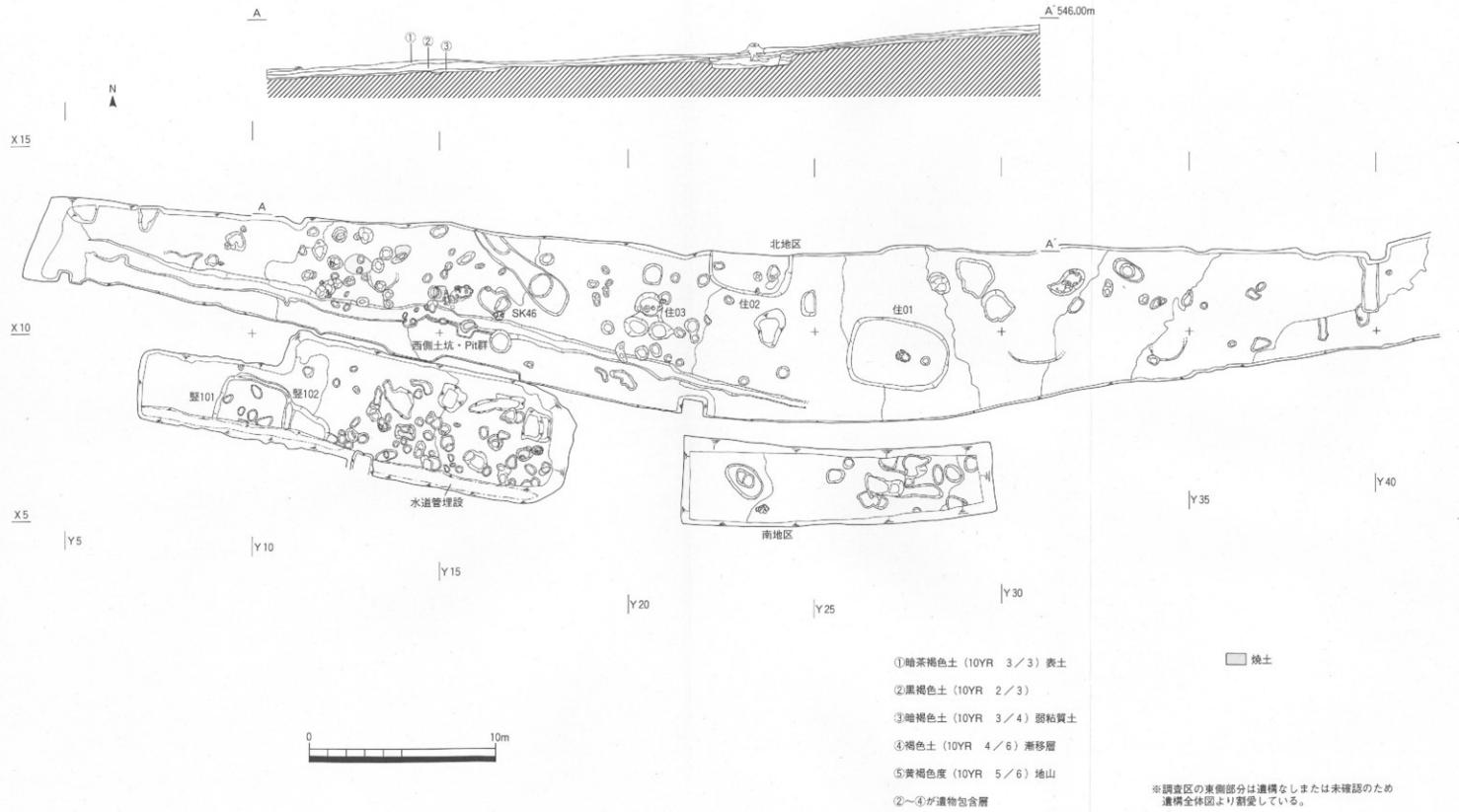
Vまとめ

以下、今回の成果を要約してまとめとしたい。

1. 花切西遺跡は標高548mの栗原野台地の緩斜面上に位置する、縄文時代中期中葉から後葉と、後期後葉から晩期中葉を中心とした集落跡である。両時期の遺構が重なり合って密集している。調査区東側は遺物の出土も少なく、遺構は検出していない。
2. 中期においては、隣接する花切遺跡と複合的な集落を形成していたものと思われる。堅穴住居跡2棟を確認しているが、住居の床面までの掘込みは25~55cmと深く、いずれも床面に完形土器を伴う。出土土器は天神山式第Ⅲ期から古府式を中心としており、串田新式を中心とした平成元年度の花切遺跡調査時より中心時期はやや遅るようである。時期により台地上の場所を越えて、集落の構築を繰り返していたものと考えられる。
3. 縄文時代後・晩期の遺構は、プランの確認できていない住居跡（炉跡のみ確認）、堅穴状遺構、柱穴状ビット群、土坑がある。調査区西側土坑群は径28~40cmの柱穴状のものと、径60~80cmの大きさのものがある。柱穴跡としてはやや大きいものが目立つ。11箇所ある焼土もこれに伴うものと思われる。数回の建て替えが考えられるが、これらの中には中期の遺構と考えられるものもあり、グルーピングは現在検討中である。
4. この期の土器は八日市新保Ⅱ式から御経塚式にかけてのものが多いが、貝殻文を施した井口Ⅱ式も若干見られる。御経塚式に比定される口縁内部に装飾をもったり、口縁部を赤彩した鉢が多い。
5. 石器は打製石斧、磨製石斧、石皿、磨石、叩石などが出土しており、特に凹石の出土が多い。石鎚、石錘の出土が少ないこともあり、植物質食料への依存が高かったものと思われる。また筋砥石やハリ質安山岩の石核、多角柱状に剥離加工を施した石があり、ある程度の石器製作をおこなっていたものと思われる。詳細は今後の課題としたい。
6. 黒色土中より、調査区を東西に横切る敷石列と溝跡が検出されている。この遺構については別稿をもって報告したい。

参考文献

- 大山町教育委員会 1997 「富山県大山町原岱跡発掘調査概要」
狩野 聰・島田修一 1988 「富山県大山町花切遺跡発掘調査概要」 大山町教育委員会
狩野 聰・神保孝造 1995 「富山県大山町東黒牧上野遺跡A地区発掘調査概要」 大山町教育委員会
小島俊彦 1975 「北陸の縄文時代中期の纏年―戦後の研究史と現状―」『大境』第5号 富山考古学会
小島俊彦 1979 「滑川市史」考古資料編
清藤 隆・岡本淳一郎 1990 「東黒牧上野遺跡A地区」 大山町教育委員会
酒井重洋・橋本正春 1977 「富山県字奈月町浦山寺藏遺跡緊急発掘調査概要」 富山県教育委員会
戸田哲也 他 1993 「岐阜県吉城郡古川町中野山遺跡発掘調査報告書」 古川町教育委員会
橋本 正・神保孝造 1974 「富山県小杉町水上谷遺跡緊急発掘概要」 富山県教育委員会
橋本 正・柳井 聰・池野正男・酒井重洋 1978 「富山県立山町二ツ坂遺跡緊急発掘調査概要」 富山県教育委員会
林 直樹 1995 「岐阜県吉城郡宮川村国道360号線バイパス改修工事に伴う発掘調査概報」 岐阜県・宮川村教育委員会
藤田富士夫 他 1983 「古沢A遺跡発掘調査概要」 富山市教育委員会
古川知明 1997 「史跡北代塹跡発掘調査概要」 富山市教育委員会
三鍋秀典・瀬戸智子 1993 「古屋敷Ⅱ遺跡－発掘調査報告」 立山町教育委員会
三鍋秀典・瀬戸智子 1994 「古屋敷Ⅲ遺跡－発掘調査報告」 立山町教育委員会
山本正敏・狩野 聰・橋本正春 他 1989 「北陸自動車道遺跡調査報告－朝日町編4－境A遺跡遺構編」 富山県教育委員会



第9図 遺構全体図 (1:200)



平成 6 年撮影



図版 1 北地区

調査区全景（西より）



調査区西側全景（東より）



第1号住居跡全景（東より）



同 深鉢出土状況（南西より）



図版2 北地区 同 炉跡（南より）



同 検出・発掘作業状況



第2号住居跡全景（南より）



同 遺物出土状況（南より）



第3号住居跡全景（北西より）



図版3 北地区

第3号住居跡付近全景（南西より）



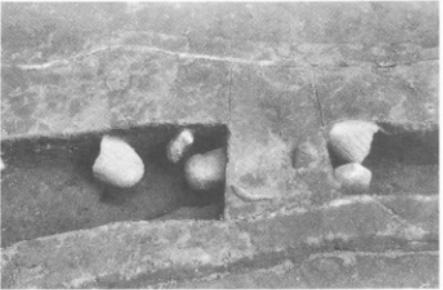
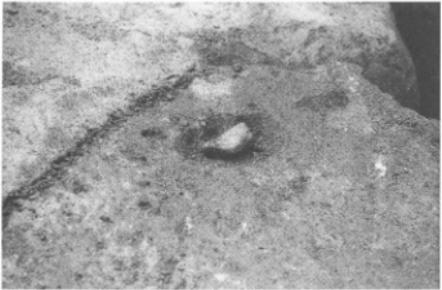
調査区西侧 柱穴状ピット・土坑群（南西より）



第6・4号炉（北東より）



第4号炉（西より）



図版4 北地区 第22号穴 土偶出土状況

SD01筋礎石出土状況（南より）



調査区西側全景（東より）



調査区東側土坑群（東より）



図版5 南地区

調査区西側 柱穴状ピット・土坑群（東より）



第101・102号竪穴状遺構（北より）

同 土層状況（東より）



第106号焼土（南より）



第101号（手前）・102号焼土（西より）



図版6 南地区 第115号穴 筋砥石出土状況（北より）



調査参加者



1



2



4

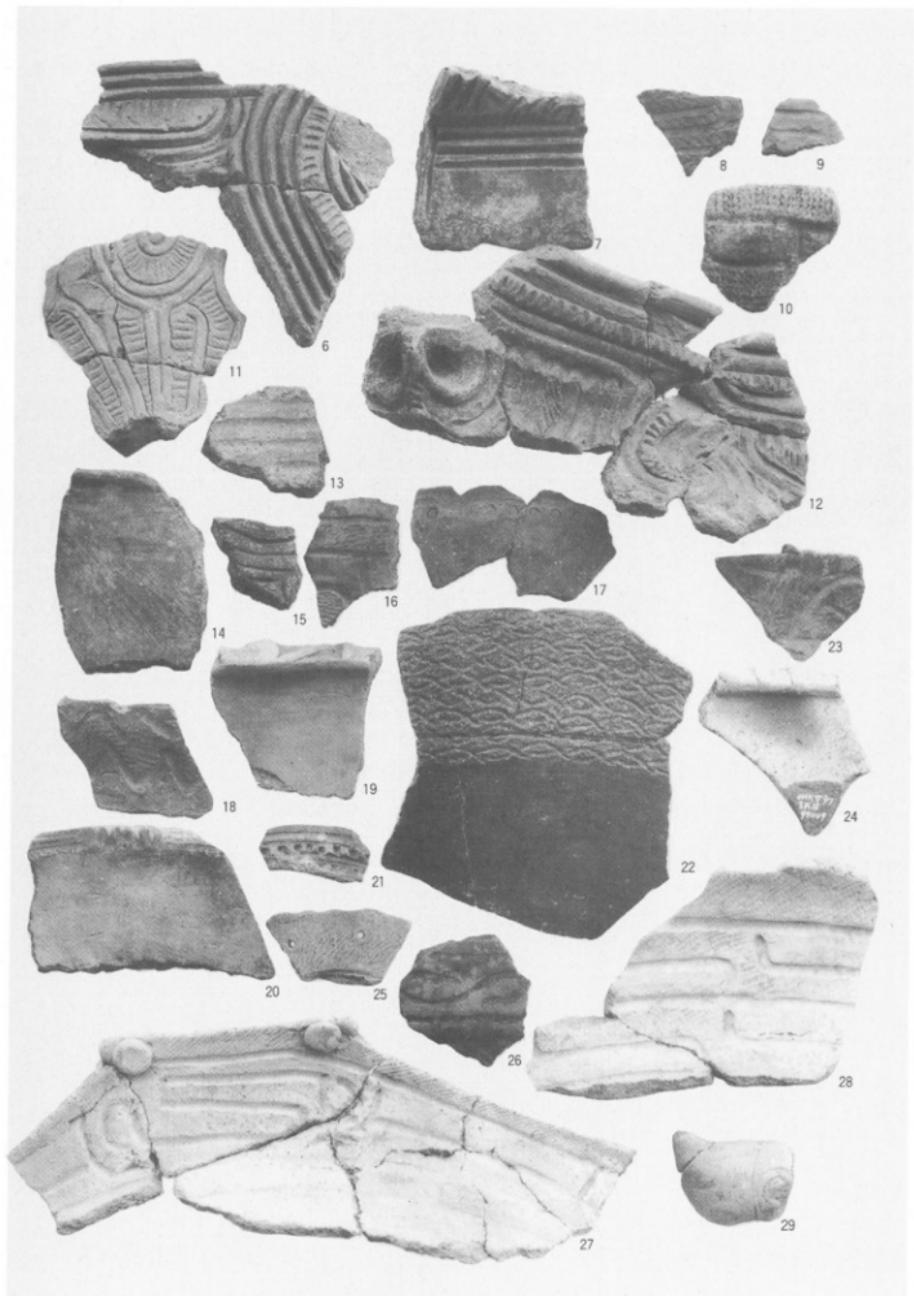


3



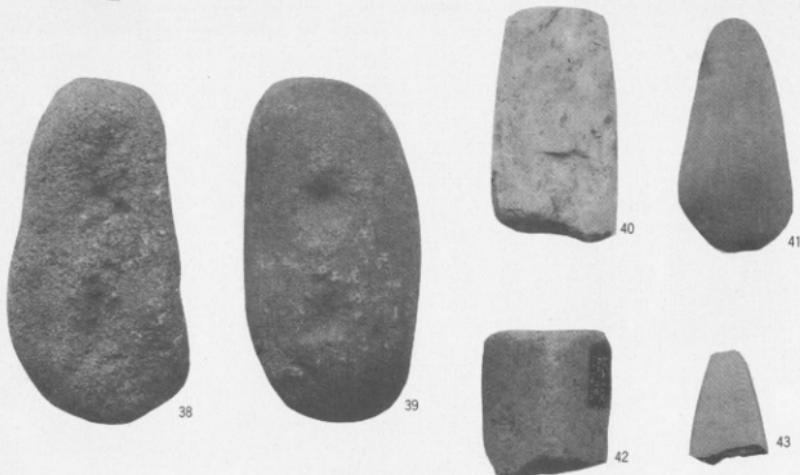
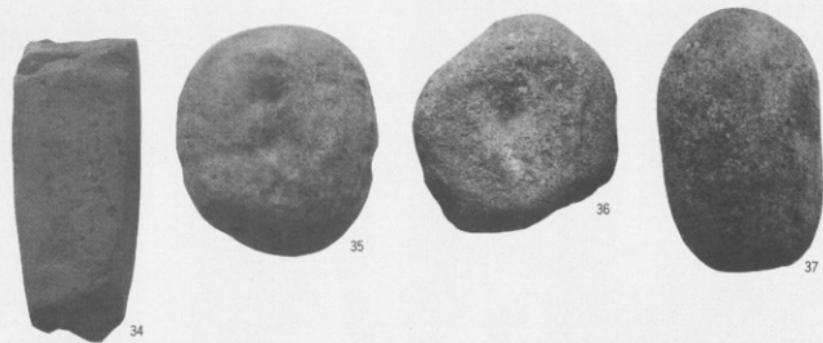
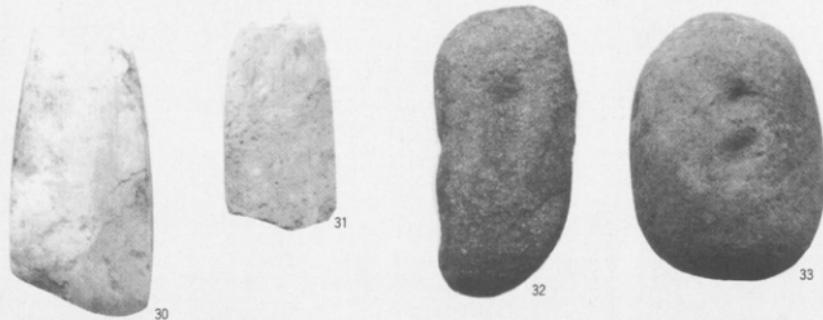
5

図版 7 土器 1.SI01、2・3.SI02、4.SK11、5.包含層(1/3)

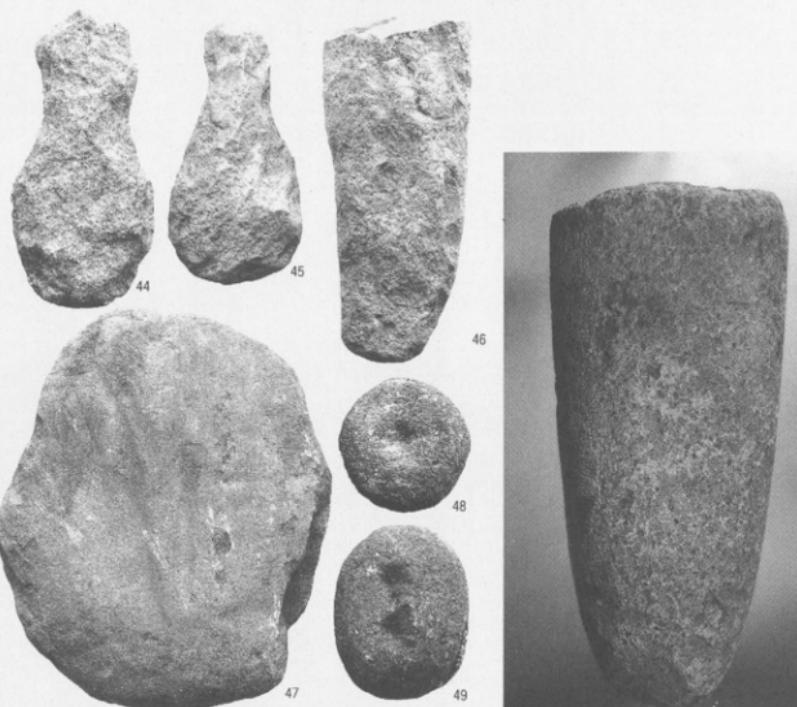


図版 8 土器 6・7.SI01、8・9.SI03、10~12.SI02、13~14.SI101、15~17.SI102、18.焼4、19.焼6、20.SK17、

21.SK28、22.SK47、23~24.SK115、25~27.SK111、28.SK129 土偶 29.SP22、(1/2)



図版9 石器 30~33.SI01、34~37.SI02、38.SI03、39.SK24、40.SK103、41.SK45、42.SK40、43.SD01(1/2)



図版10 石器 46.SX01、47.SK115、44·45·48~50.包含層(1/3)、56.SK31、57·58.SK46、51~55.包含層(1/2)

報告書抄録

| ふりがな | とやまけんおおやまちはなありにしいせきはつくつちょうざがいよう一おおやまちまいぞうぶんかざいちょうさほうこく8- | | | | | | | |
|--------------|----------------------------------------------------------|--------------------|------------|----------------------------------------------------|--------------------|---------------------------|-------------------|------------------------|
| 書名 | 富山県大山町花切西遺跡発掘調査概要 一大山町巡査文化財調査報告8- | | | | | | | |
| 編集者名 | 野中由希子 | | | | | | | |
| 編集機関 | 大山町教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒930-1392 富山県上新川郡大山町上滝523 | | | | | | | |
| 発行機関 | 大山町教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒930-1392 富山県上新川郡大山町上滝523 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 1999年3月31日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東經 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 花切西遺跡 | 富山県上新川郡 大山町本宮花切割 | 302 | 068 | 36度 34分 30秒 | 137度 25分 58秒 | 19970626 ~ 19971114 | 850m ² | 町道改良工 事に先立つ 事前調査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | | 特記事項 | |
| 花切西遺跡 | 集落跡 | 縄文時代 中・後・ 晩期 | 竪穴住居跡 穴 | 縄文土器、土偶、石器、打製石斧、 磨製石斧、凹石、擦石、砥石、石棒、 石刀、蛇紋岩製丸玉 | | | | |



大山町立小見小学校の見学 平成9年9月18日

富山県大山町 花切西遺跡発掘調査概要
— 大山町埋蔵文化財調査報告 8 —

発行日 平成11年3月31日

編集 大山町教育委員会

発行 大山町教育委員会

〒930-1392 富山県上新川郡大山町上滝523

TEL(076)483-2594 FAX(076)483-8820

印刷 (株) チューエツ

※この冊子は再生紙を使用しています。
(ニューエージR)